

あさひの日だまり

NO.19

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～なかよし旬間が始まります～

お話しの時間をいただきました

来週はなかよし旬間です。なかよしカレー会もあります。それに合わせて今週の木曜日に人権にかかわる校長講話をしました。1年生から6年生と一緒に話を聞いてくれます。1年生の感じ方と6年生の感じ方はだいぶ違います。両者の心に届くようにするにはどうしたらよいかなかなか悩ましかったです。

本屋さんへ行って、話のタネになるような何かよい本はないかと探してみました。絵本のコーナーに「くまとやまねこ」という本を見つけました。何気なく手に取って読んでみました。一回読んでなんとなく気になって購入し家で何回か読み返しました。

「このときのくまさんの気持ちがわからないな～？」って思ったり、「やまねこさんはどうしてこんなに優しい言葉をかけられたんだろう？」って考えたり、いくつかの「？」が私の中に生まれました。「この問いを全校のみんなと想像してみる講話にできたらな～」と思うようになりました。下に記したものが当日のお話しののですが絵本の本文を掲載できないので意味が通じない部分があります。どうぞお許し下さい。

皆さんおはようございます。今日はなかよし旬間にあわせてお話をします。

今日のお話は、自分が話した言葉や行動でお友だちがどんな気持ちになってるかな、悲しい気持ちになっていないかなってことを一生懸命想像して欲しいというお話です。お話の題名は「相手の気持ちを想像する練習」としました。

まずみなさんに「くまとやまねこ」というこの絵本の一部を読みたいと思います。

登場するのはくまさん、ことりさん、森のどうぶつたち、そしてやまねこさんです。みなさんには登場するくまさんの気持ちを想像してもらいたいと思います。「くまさんは今どんなことを思っているのかな、どんな気持ちなのかな」とお話の途中で聞きます。想像して答えて下さいお願いします。まず通して一回読みますね。

2回目は皆さんに質問します。それでは始めます。

ここで一回切りますね。「どこへいくにも、くまさんはことりさんをいれたその箱（死んでしまった仲良しのことりを花びらを敷き詰めた箱へ納めたもの）をもってあるくようになりました」という一文がありましたね。このときくまさんはどんな気持ちだったのでしょうか、想像してみてください。

（何人かの児童が手を挙げて「いつか生き返るかもしれないって考えてる」「大切な友だちと一緒にいたい」等豊かな心の内を発言してくれました）さあ次へ進みますね。

ここで一回切りますね。くまさんは「くまくん、ことりはもうかえってこないんだ。つらいだろうけど、わすれなくちゃ」と森の動物たちに言われて部屋に閉じこもってしまいました。このときくまさんはどんな気持ちだったのでしょうか。（「ことりがしんじやって悲しいのに、わすれるようにと

言われてもっと悲しい気持ちになったと思う」等子どもたちはくまさんの気持ちを一生懸命に想像してくれました）

さあ次へ進みます。先生ね。やまねこさんがどうしてこんなに優しい、くまさんの思いに寄り添った言葉「きみは このことりと、ほんとうになかがよかったんだね。ことりがしんで、ずいぶんさびしい思いをしているんだろうね」って言葉をかけられたのかなってすごいなって考えたんです。みんなはどう思う。

（「きっと、やまねこさんはくまさんと同じ大切な友達をなくしてしま



う経験をしたんじゃないかな」というように自分の生活に引き寄せたお話をしてくれる子どもたちでした) 校長先生も、大切な大切な友だちをなくすってことをやまねこさんは経験したんだと思うんだよ。だからくまさんの気持ちが痛いほどよくわかったんだと思うんだよ。

最後に校長先生の言いたいことをまとめるよ。皆さんは、隣りにいるお友だちと同じ経験をしているわけじゃないよね。ということはお友だちの気持ちを理解するってことはすごく難しいんだよ。何気なくかけた言葉がお友だちを傷つけているってことがあるんだよね。きのうも校長室へ「校長先生、友だちに傷つくことを言われて悲しい」と話に来てくれた人がいました。相手はその人がそんなに悲しい思いになってるなんて全然気が付いていないんだよ。

そういうときに大事になるのが「想像力」なんだよ。相手がどんな気持ちでいるのかを一生懸命想像するわけ。想像力が欠けちゃうと相手を悲しい思いにさせたり切ない気持ちにさせたりしちゃうときがあるんだよ。

お友だちとお話するときには相手の気持ちを分かってあげようとする想像力を精一杯働かせてお話をしてほしいんです。長い話になってしまいました。ずっと頑張って聞いてくれてありがとう。校長先生のお話はこれで終わりです。

～平出区敬老会に金管がまねかれました～

ご招待に感謝です



15日の日曜日に平出区の敬老会がありました。金管バンドが招かれて演奏させていただきました。

下の文は金管の顧問の岡田先生が出して下さったお便りの一部です。平出区の皆様と金管バンドの皆さんに感謝を込めて紹介させて下さい。

この敬老会への参加は、ほたる祭りでの演奏を聴いていらっしゃった平出地区の方が、後日学校へお越しになり引き受けた依頼演奏でした。例年参加しているものとは違う発表。私も子どもたちも、どのような雰囲気やどれぐらいの人数がいらっしゃるのか分からずに練習し、当日を迎えました。

出演したのは、①史和会「箏曲演奏」 ②豊南短大「津軽三味線演奏」 ③伊那岳心会「詩吟」 ④東小金管バンドでした。当日会場へ向かう前、子どもたちには、「子どもらしさ、元気をお届けできるような発表にしようね!」と伝えました。

当日、グロッケン担当のゆらさんと楽器を運ぶために2階の会場へ行くと…“人が多い!!!” ゆらさんと、「思ったより人が多いし広いね…」と驚いて控室に戻りました(笑) 待機時間が結構あり、詩吟を聴く機会もあり無いただろうし、会場の雰囲気も感じておくと良いと思い、せっかくなので詩吟の発表を聴いて待ちました。

そして東小の出番。会場の幕が上がると、「おっ!」「よっ!」「待ってました!!」とあちらこちらから声が(笑) みんなで元気いっぱいの挨拶ではじめ、元気いっぱいのお礼で締めました。演奏は私が顧問になって一番上手な演奏でした!! 前日に自主練をしたり、当日も少し早めに来て練習したりしてきた成果、バッチリ出ましたよ! やればやるほど上達していく子どもたちで、本当に驚かされます。

曲と曲の間には会場から盛大な拍手と歓声が上がり、本当に素敵な雰囲気で発表ができました。(私たちの発表が始まるまでお酒を飲みながらおしゃべりしていた方々も、ほとんどの方が子どもたちに注目し、嬉しそうな表情で聴いていらっしゃいました。)

やはり、子どもという存在、そして音楽は、人に元気を与える力があるのだなと改めて感じる瞬間でした。このような温かな雰囲気で地域とつながりながら行える活動は、奏者としても地域の子としても、学ぶことがたくさんありとても良い経験となります。私も、この学校へ赴任して来てから一番たくさんの地域の方々とお話でき、とても嬉しい時間となりました。(こういうの好きなんです。)

お礼にタピオカジュースと御礼をいただきました。御礼の使い道は職員で相談し、頑張っている子どもたちへ還していけることに使っていきたいと思います。